

7 - 1 近畿・中国・四国地方の地震活動（1995年5月～10月）

Recent Seismic Activity in and around Kinki, Cyugoku and Shikoku Districts (May-October, 1995)

大阪管区气象台

Osaka District Meteorological Observatory, JMA

第1図は、1995年5月から1995年10月までの大阪管区气象台で決定した地震の震央分布図である。日付けとマグニチュード（以下M）などが付してあるのはM4.0以上の地震で、合計10個発生している。このうち最大の地震は、9月9日の紀伊水道南部の地震、および10月14日の大阪湾で発生した兵庫県南部地震の余震で、ともにM4.8である。5月10日には伊予灘でM4.5の地震が発生したが、この付近では1991年1月4日にM5.2、1993年8月にはM5.0および5.1の、M5を超える地震が発生している。

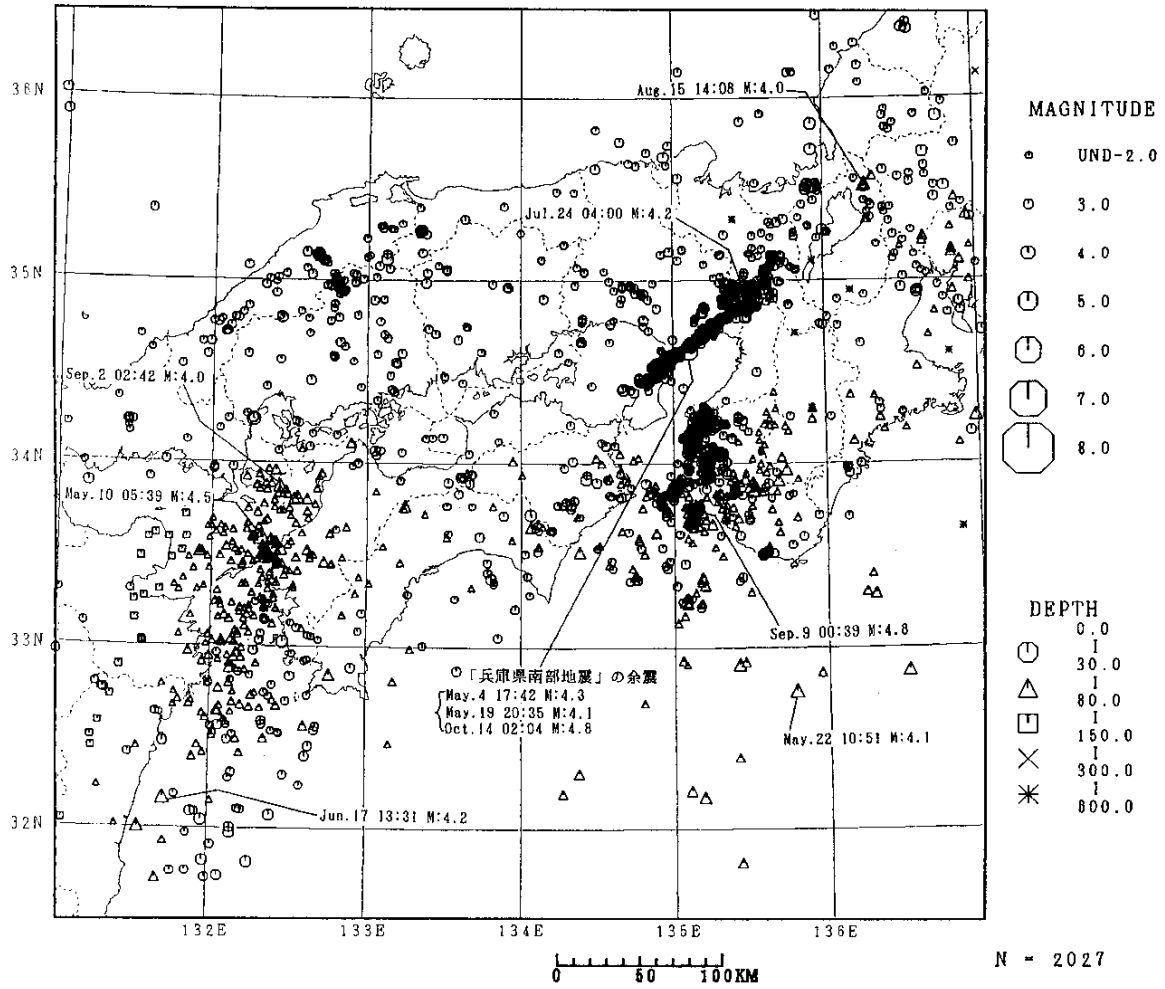
和歌山では6月6日17時35分の震度2を皮切りに、7日03時55分の震度2まで約半日間の内に計9回の有感地震を観測した。和歌山市付近は、定常的に地震活動の活発なところであるが、最近の例では1993年4月20日未明、1時間あまりの間に8回の有感地震を観測した例もある。9月9日紀伊水道南部の地震が発生した地域は、深さ40～60kmの地震がよく発生する場所であるが、M4を超える地震としては1993年9月17日（M4.1）以来である。

「兵庫県南部地震」の余震活動（第2図）は、この期間も順調に減衰しているが、その中で、M4.8というやや規模の大きな余震が10月14日に発生した。マグニチュード4を超す地震は5月19日以来約5カ月ぶりの事である。この地震のすぐ後、ほぼ同じ場所でM3.8の地震が発生したものの、その後はM3を超える地震が起きていない。

第3図は「兵庫県南部地震」の本震前ほぼ1年間と、本震以後7月末までの震源域周辺の活動状況を示している。昨年（1994年）10月に津波地震検知網に切り替え後検知力が向上しているが、地震前後の地震活動を比較すると、震源域北東側の活動が活発化しているのは明らかである。7月24日の大阪府北部の地震（M4.2）もその一つである。前述のように余震活動は鎮静化に向かっているが、余震域北東側の兵庫県南東部・大阪府北部から京都府中部にかけての地域では、兵庫県南部地震以後活動の活発な状態が続いている。

近畿・中国・四国地方の震央分布図

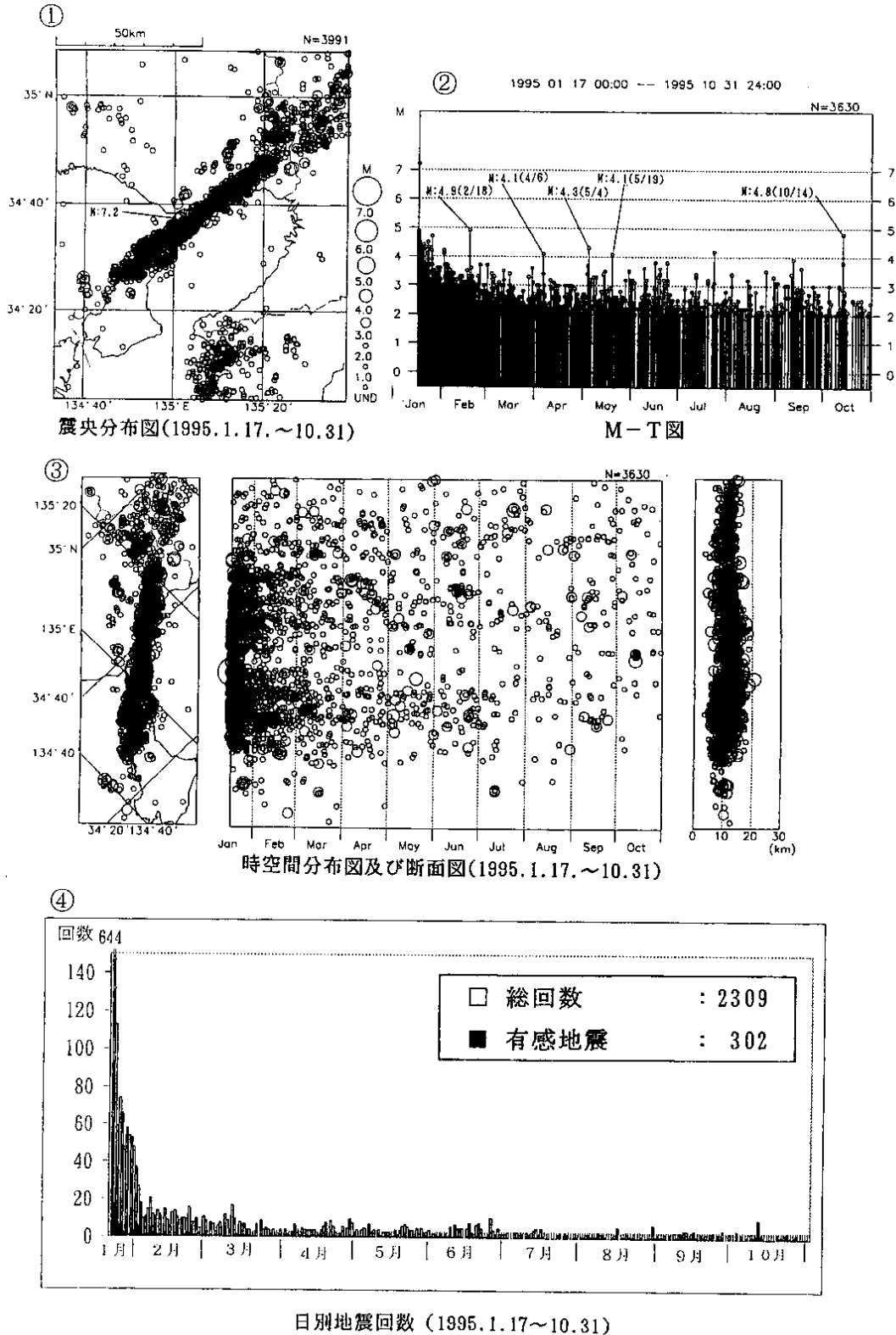
(1995/5/1 0:0-->1995/10/31 24:0)



第1図 震央分布図 (1995年5月~1995年10月)

Fig. 1 Epicentral distribution (May-October, 1995).

「兵庫県南部地震」の余震活動

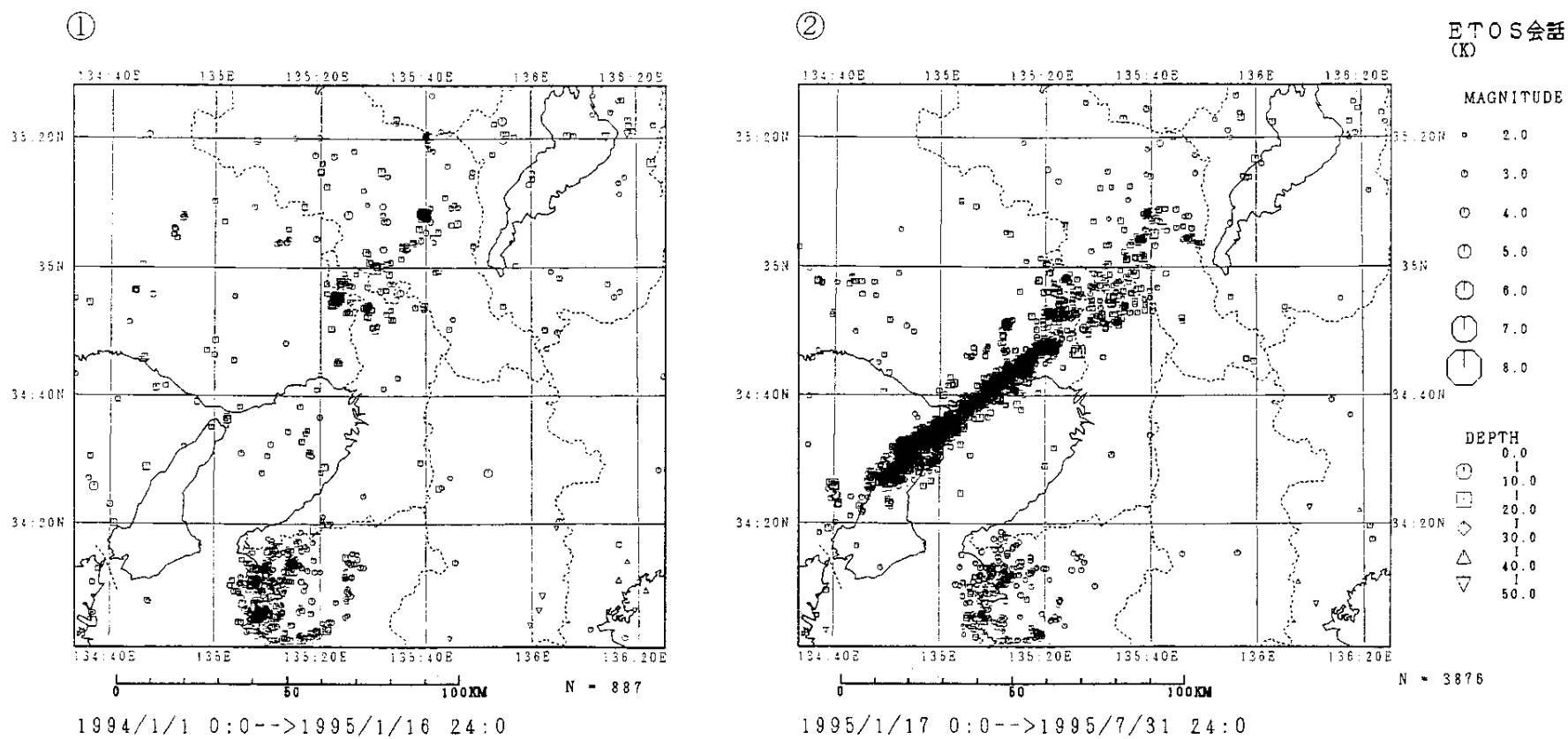


第2図 兵庫県南部地震の余震活動

震央分布図 M-T図 時空間分布図及び断面図 日別地震回数

Fig. 2 Aftershock activity of the 1995 Hyogoken-Nambu Earthquake.

Epicentral distribution M-T diagram Space-time plot and vertical section
Daily number of earthquakes.



第3図 兵庫県南部地震前後の期間別震央分布図

地震前 (1994年1月1日~1995年1月16日) 地震後 (1995年1月17日~1995年7月31日)

Fig. 3 Epicentral distribution for divided periods by the the 1995 Hyogoken - Nambu Earthquake.

before the earthquake (Jan. 1, 1994-Jan. 16, 1995). after the earthquake (Jan. 17, 1995-Jul. 31, 1995).